

5. ワークショップ手法について

総合学習実施の参考例として、誰もが意見を言いやすく、「答え」を子どもが見つけ出す、ワークショップ授業の手法をとりまとめました。

参考資料

エコ総合学習 創造を生み出すワークショップ授業
寺本潔 愛知県豊田市立堤小学校（共著）

1. ワークショップとワークショップ授業

「ワークショップとは・・・」

ワークショップとは、なにかについてアイデアを出し合い意思決定する集まりで、会議の一種といえる。ただし、通常の会議と違うのは、誰もが自由に意見を言いやすいように工夫されていて形式張っていないこと、グループの創造行為と合意形成に焦点をおいていることである。

近年、住民参加型の街づくり等で合意形成のために良く使われる手法で、様々なアイデアや意見の交換を通じて、参加者全員で判断を下しながら計画案づくりが進められる。

「ワークショップ授業とは・・・」

- ・みんなで意見交換や共同学習を行いながら進める、体験的参加型授業法。
- ・「気づき」を出し合い、新しい発想と行動計画に結びつけるもの。

あらかじめ設定された「答え」を見つけるのではなく、ワークショップは「答え」そのものを参加者が生み出すプロセスを尊重する。

ワークショップ授業には、授業作りの基本である、「意欲」「問題解決力」「人とのかかわり」の三つの要素が含まれている。

2. ワークショップ授業の特長

上記のようなワークショップ授業の利点を活用することで、次のような児童への効果が期待できる。

関心・意欲・態度 ... 学習意欲が高まり、自分なりに考えようとする姿勢が身につく。

ワークショップ授業の特徴	ワークショップ授業の利点
グループ単位で運営する。	・少人数のグループなので、誰もが意見を言い易い。 ・コミュニケーション能力や社会性が高まる。
一人一人の意見表明の跡付けを大切に（ポストイット等に全て書き出す）。	・全員参加の雰囲気を持続。 ・多様な意見に触れることになり、異なる視点から考えを深める姿勢が身につく。
KJ法などの情報整理手法を利用。	・情報整理（および問題解決）能力が高まる。
互いの意見を認め合うことを前提に、話し合いや活動が行われる。	・和気あいあいとした、良い雰囲気が醸成される。 ・認められる安心感から活動意欲が増す。
調整役（ファシリテーター）の存在。	・どの児童にも同等の活動や発言機会が確保される。
独自の「気づき」を発表する。	・発表形式に独自性が生まれる余地が大きい。

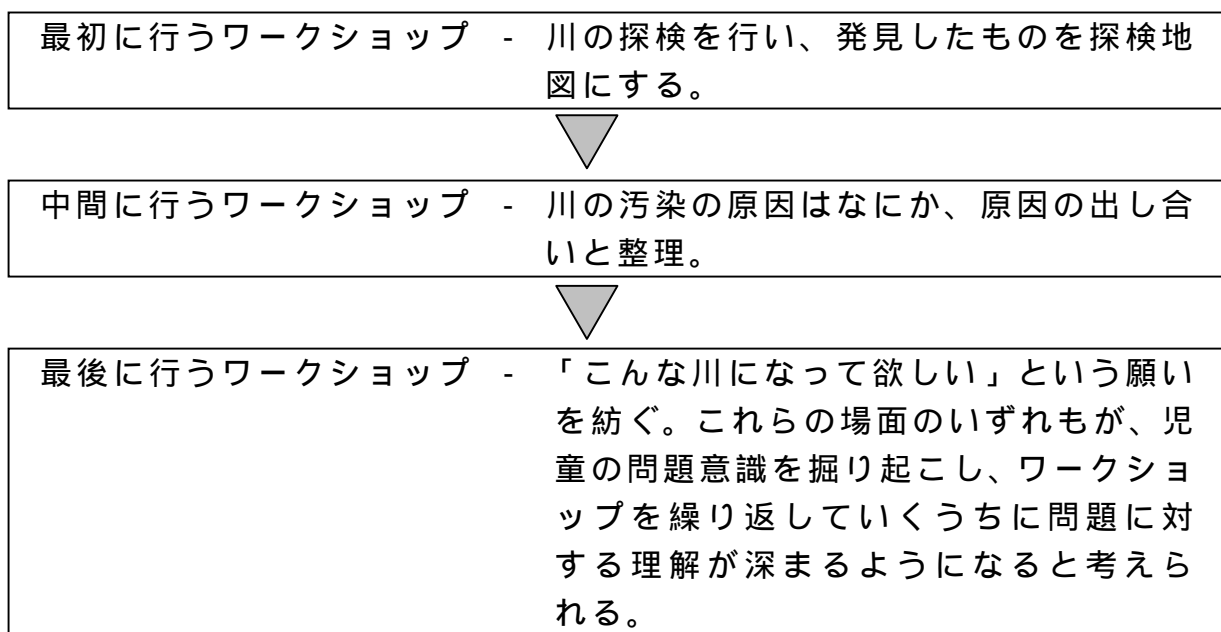
技能・表現	...	多様な情報を整理する技能や、目的に応じた工夫をして表現する力が高まる。
思考・判断	...	参加・体験を通して、多様な意見や価値観に触れる事により、立場や視点を変えて考えたり、判断したりする力が高まる。
社会性	...	コミュニケーション能力やリーダー性、協調性や協働意識など、よりよい人間関係を築くために必要な資質が高まる。

3. ワークショップ授業の取り入れ方

ワークショップ授業は、単元全体を貫くスタイルではなく、むしろ長い単元のなかで2~3時間や半日程度のまとまった学習時間を運営する際に関係してくる手法である。

問題解決型学習の基本的流れである、「仮説の立案 試行 問題の背景調べ 練り合い 意思決定」という流れの中に、ワークショップという楽しい場の共有を組み込んで単元全体をデザインすることになる。

例)「都賀川環境を守ろう」



教師の役割

ワークショップ授業においては、通常の授業とは教師の役割も変化することになる。教える部分は後退し、その代わりとして以下の事項が重要な役割となる。

1. 全体の流れの進行
2. 学習意欲を引き出す雰囲気づくり
3. 子ども達の活動が円滑に進むような準備
4. 多様な取り組みを幅広く受け入れるための教材研究
5. それぞれの取り組みに対する到達点のイメージ化
6. どこで、どのようなワークショップ（技法）を取り入れるかの構想
7. 一人一人の子やグループの相談にのり、アドバイスをする（ファシリテーターとなる）

ワークショップにおける技法

技法1 アイสบレイク

その後の学習活動が円滑に行われるように、児童の緊張をほぐすために行う活動全般。

例) 学習のテーマにつながるクイズなどを導入時に行う。

技法2 ブレーンストーミング

児童が持っている印象や知識、アイデアを短時間に出来るだけ多く引き出す活動で、独創的で多様なアイデアを発見することが出来る。質よりも量を重視して、思いついたことを次から次へとポストイットなどに書き出す。批判はせずに、のびのびと行うこと。

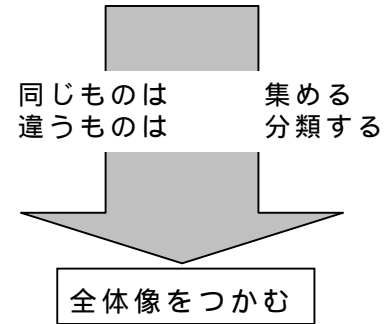
技法3 フォトランゲージ

写真をじっくりと観察し、感じ、読み解く活動で、話し合いのきっかけを作り、具体的に考えていくこと可能にする。写真を見て、疑問に感じたり、ひっかかったりしたことを次々に挙げていく。ブレーンストーミングと同じく、質よりも量を重視して、グループのメンバーのどんな考えも受け入れることが重要。

技法 4 KJ 法

グループで話し合いながら、情報を項目ごとに分類し、各項目を構造化していく活動。雑多な情報が整理され、全体像をつかみやすくなる。また、視覚的な理解も容易になる。

調べたことやブレインストーミングで出された考え等



KJ 法の流れ

技法 5 ポスターセッション

グループの学習の成果を模造紙などに表現（ポスター）して発表を行うこと。発表者はブースに分かれ、視聴者はブースを回りながら興味のあるグループのポスターを見て質問をしたり、感想を述べたりする。

ポスターセッションは、全員が発表をする機会を持つと同時に、全員が他のグループの発表を主体的に聞きに行くことが出来る。

技法 6 プランニング

学習したことを踏まえて、自分達に出来る具体的な活動計画を立てる活動。知識と技能を駆使して、行動に移す意欲を高めることが出来る。具体的な活動計画(アクションプラン)が決まったら、教室の掲示コーナーを利用して、児童の実践を紹介する場を設けるとより効果的である。